

対日政策 見極め急ぐ

首相訪米 トランプ氏と会談へ

安倍晋三首相は17日午後5時(日本時間18日午前7時)から、訪問先の米ニューヨークでトランプ次期大統領と会談する。就任前の次期大統領との会談は異例。過激な発言を繰り返してきたトランプ氏と信頼関係を築き、日米同盟の重要性を確認したい考えだ。首相は19日にペルーでロシアのプーチン大統領とも会談する予定だ。

▼国際面―経営手腕に注目

まず信頼関係構築

「トランプ大統領とは未だに勝つてから、首脳級で会談するのは安倍首相が初めて。首相は19日からペルーであるアジア太平洋経済協力会議(APEC)首脳会議への出発を1日早く、現地時間の17日午前にニューヨークに到着。1泊してペルーに向かう。官邸幹部は会談は少数で、人間性を見

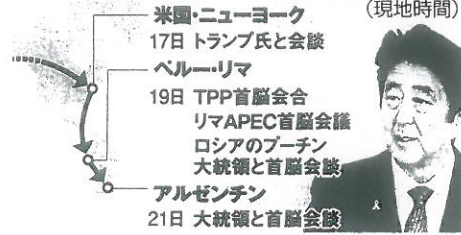


トランプ氏の日本に関する主な発言

安倍氏は非常に賢い。私も一度、会ったことがある。駐日大使は重要なポジションだ。ケネディ大使は、日本にやられ放題だ(昨年8月)

我々はもはや「世界の警察官」はできない。今や核の世界だ。恐らく北朝鮮も持っている。日本に(核を)持たせるとするのはさほど悪いことではない(3月)

安倍首相の外遊日程 (現地時間)



せる形でやりたいと語る。首相はトランプ氏の当選直後から、同氏や周辺との接触を急いだ。10日にトランプ氏に直接電話をかけた会談を取り付けた。14日には河井克行首相補佐官を訪米させ、トランプ氏の政権移行チームのメンバーらに接触させた。

対策を急ぐ背景には、トランプ氏の対日政策が不透明なことがある。オバマ政権の国務長官だったヒラリー・クリントン氏と違い、政治家経験のないトランプ氏と日本政府のパイプは細いとされる。日本政府はトランプ氏と食事をとりながらの会談も想定したが、首相周辺は「食事はなくなりそ

うだ。いきなり「食事をとらう」というのは重かったと話す。首相は会談で、トランプ氏が大統領選で環太平洋経済連携協定(TPP)からの離脱を唱えていたことも踏まえ、日米関係全般について意見を交わして真意を探りたい考えだ。

一方、奔放な発言を続けてきたトランプ氏の出方には見通せない面もある。日本への言及は、昨年6月の大統領選への立候補表明に始まった。

「日本は数百万台の自動車を売っているというのに、我々は何をしているのか。日本はいつも我々を打ち負かしている」

日米貿易不均衡に対する強烈な不満のアピールだった。外交をビジネスの交渉に見立て、「米国は引き続き日本を防衛したいと思うが、常に打ち切る準備もしなければならない」。在日米軍駐留経費のさらなる負担増だけでなく、「我々が攻撃を受けても、日本は家でソニーのテレビを見ている」などと、日米安保条約の片務性に不満を示すような発言もあった。

大統領選後、トランプ氏には軌道修正を図る様子もうかがえる。安倍首相との会談では、トランプ氏が日米同盟や対日外交にどのような姿勢をみせるのかが注目される。小野甲太郎、ニューヨーク・佐藤武嗣、石松恒

産経新聞

平成28年(2016年)11月18日 金曜日

9 国際 15版

日本と会談「関心の表れ」

トランプ氏チーム議員

【ワシントン＝加納宏幸】トランプ次期大統領の政権移行チームの一員であるニューネス下院情報特別委員長は16日、トランプ氏が組閣作業の時間を割いて安倍晋三首相と17日にニューヨークで会談することについて、「トランプ氏が日米関係に強い関心を持っていることの表れだ」と説明した。訪米中の河井克行

首相補佐官との会談後、記者団に語った。ニューネス氏は米議会の超党派の対日友好議員連盟「ジャパン・コーカス」で共和党側の共同議長を務めたことがある知日派の一人。トランプ氏と安倍首相の会談について、ニューネス氏は「非常に刺激的な会談になるだろう。トランプ氏のチームは興味を持っている」と述べた。

トランプ氏は、各国首脳と電話協議を続けていることを、来年1月の新政権発足への準備が順調に進んでいることの裏付けとして強調している。

移行チームによるとトランプ氏とベンス次期副大統領は大統領選後、安倍首相を含む各国首脳ら29人と電話協議した。

14日からワシントンで次期政権に関する情報を収集していた河井氏は16日にニューヨーク入り。安倍首相に合流して状況を報告する。(3面に関連記事)